



学校だより

令和元年 6月 28日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-kyo.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.498

盲導犬クイールの一生

校長 谷田 弘子

いよいよ本格的な夏の到来です。夏休みまであと15日、一学期のまとめの期間です。6月26日・27日には、田二小恒例の「ほたる観賞会」が行われました。2日間で、のべ約3400名の方が来校し、幻想的な「ほたるの乱舞」を観賞しました。多くの保護者や元PTA会長とPTA役員の方々のご協力により、大成功でした。ありがとうございました。例年、多くの卒業生も集まり、ミニ同窓会のように。卒業生の成長した姿を目にすることができるのは、教師にとって、大きな喜びです。

さて、この頃、よく犬を連れた人に会います。みなさんの中にも犬や猫のほか、いろいろな動物を飼っている人もいます。このところ、空前のペットブームが続いていて、大勢の人がさまざまな動物を飼育しています。ペットを飼ってもよいマンションやアパートも人気になり、増えてきました。ペットの中でも犬や猫は、はるか昔から私たち人間とともに仲良くしてきた動物です。でも、そのすべての犬や猫たちが、幸せな一生を送っているかというところではありません。飼い主の勝手な都合で捨てられて、保健所で殺処分される犬と猫の数は、年間30万匹、1日にすると1000匹もの数になるのが現実です。私たちのそばに寄り添ってくれる犬や猫は、人間にとって昔からの支えであり、疲れた気持ちを和らげてくれる最高の友達であると私は思っています。

今回は、盲導犬として目の不自由な人を支えた犬の一生をまとめた本を紹介します。本の名は、『盲導犬クイールの一生』です。テレビや映画で見た人もいるかも知れません。この本は石黒謙吾さんが、実話に基づき書きました。

東京のある家で、ラブラドル・レトリバーの子犬が5匹生まれました。飼い主は、子犬が生まれたらそのうちの1匹をぜひ盲導犬にしたいと思っていましたので、一番おとなしかった子犬を、盲導犬の候補として育ててくれる人に預けることにしました。盲導犬は、目の不自由な人が歩くとき、その人の目の代わりになって段差や障害物を知らせ、助けてくれる犬です。

預けられたその子犬は、「クイール」と名付けられました。クイールは、さらにその後、盲導犬になる盲導犬訓練所に移され、訓練士から盲導犬としてたくさんの時間をかけて育てられます。盲導犬としての訓練が終わったクイールは、その後、あまり犬が好きではない渡辺さんという人の盲導犬になりました。クイールは、盲導犬としては平均的な犬でしたが、とても素直な犬でした。いつも渡辺さんのそばにぴったりと寄り添い、自分の役目をしっかり果たしました。初めは犬が好きではなかった渡辺さんの気持ちも、次第に変わり、渡辺さんに「盲導犬がこんなにすばらしいパートナーだとは思わなかったよ・・・」と言わせるまでになったのです。続きは・・・ぜひ読んでみてください。

この物語は、犬のやさしさ、人のやさしさとは何かについて読者に問いかけています。また、この本には、クイールの姿を撮ったたくさんの写真が載せられています。ぜひ、みなさんにこの本を読み、やさしさという意味を感じてもらいたいと思います。今年の夏休みは44日間です。児童は、さまざまな経験をしたいと思います。良い作品にもたくさん触れていくことで、心を豊かに育ててほしいと願っています。